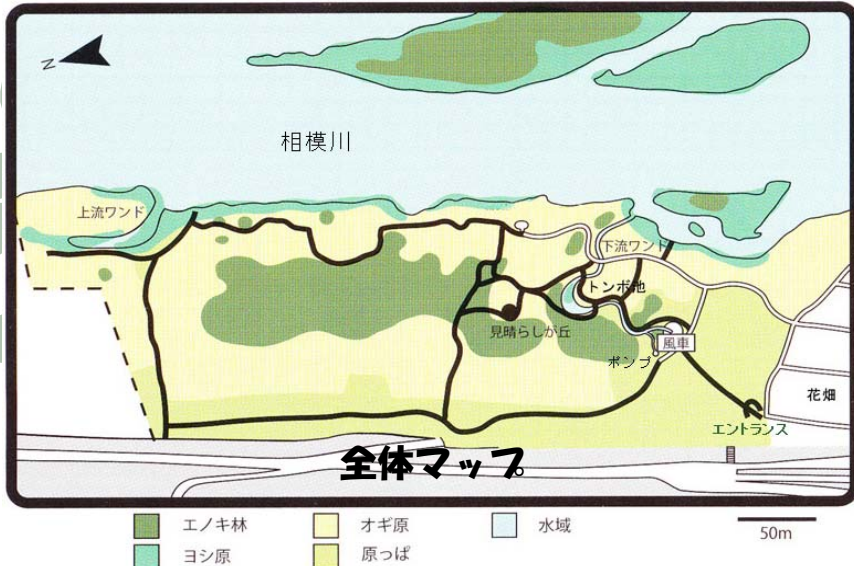


馬入水辺の楽校

草地管理講習会レポート

12月16日(日)、相模川の河川敷にある「馬入水辺の楽校」で行なわれた、草地管理講習会に参加してきました。「馬入水辺の楽校」とは、2001年春に誕生した自然の遊び場です。以前は大部分が駐車場で、ゴミの不法投棄や不法耕作なども行なわれていた河川敷を、国土交通省と平塚市がエコアップしたものです。河川、ヨシ原、エノキ林、オギ原、竹林、原っぱ、池など様々な環境があり、多様な生きものが生息しています。今回の講習会では、「草地」をテーマに、保全作業の実践、生息する動植物の観察などを交えて、保全の考え方について学びました。今後の「JFE トンボみち」の活動に役立てたいと思います。(記・写真:柴田)



「JFE トンボみち」の活動に役立てたいと思います。(記・写真:柴田)

エントランスに立つ木製看板



シンボルの風車
(オーストラリア製で地下水を汲み上げます)



当日は、「JFE トンボみち」の自然観察会でおなじみの早川さん(あおぞら自然共育舎代表)を講師として、主催団体である「馬入水辺の楽校の会」の臼井会長が施設を案内してくださいました。

「馬入水辺の楽校の会」公式HPは、つぎのサイトをご覧ください。
<http://banyumizube.info/>



▲ガガイモの実からでた種子
(羽毛みたい!)



▲草地のツチイナゴ
(成虫で越冬します)



京浜の森 ロゴマーク

トンボみちなんでも調査隊

皆さんの「？」を調査します。例えば、作物の連作の影響は？、外来植物への対応は？、堆肥の効率的な作り方は？など。皆さんの「？」を事務局へお寄せ下さいね。

ビオトープの「アオミドロ」は駆除すべきか？

～ トンボ池を管理するために調べてみました ～

昨年、JFEトンボみちのビオトープでアオミドロが異常(?)に発生し、池の半分ほどが緑色になりました。このアオミドロを駆除すべきか、駆除したことによる生態系への影響が発生するのか、駆除の方法・繁殖の抑制などについて調べてみることにしました。(調査隊員:相馬)

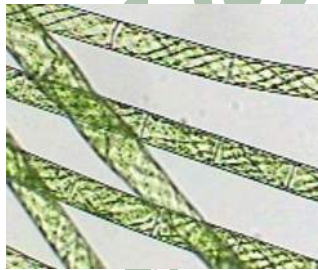


アオミドロ

出典:一水草槽・水草レイアウトのHP アクアリビング

1、「アオミドロ」とは(車軸藻綱ホシミドロ目アオミドロ属に分類される細い糸状の緑藻類の総称)

- ①糸状で多細胞。細胞内の葉緑体がリボン状で螺旋形
- ②浅くて栄養豊富な淡水にごく普通に見られる
- ③繁殖力が強く緑色のカーペット状になる
- ④触るとヌルヌルと滑る感触がある
- ⑤春先から夏にかけて大繁殖し、冬季は休眠状態となる



出典:水中の微小生物



出典:農林水産省/アオミドロ

2、アオミドロの良いところ

- ①メダカの産卵場となる藻場として生態循環の場を形成
- ②水質浄化の機能を有している

3、アオミドロが及ぼす影響

- ①ビオトープの鑑賞池としての機能を考えた場合、景観的に良いとはいえない
- ②多量発生すれば、底の方の藻体から死んで汚泥状となり見苦しいうえに、悪臭を放つ原因となる
- ③魚などが泳ぐのに困る場合もある

(2月号に続きます。…)

【ファンクラブ活動記録】 トンボみちの仲間たち

12月29日(土)の月例活動の様子です。(撮影:山田裕子さん)



聖護院大根の収穫

白菜(収穫はまだ...)

入口付近の枯れ草取り

年越し
10割そば

年越しそばを茹でて
みんなでいただきました

ファンクラブのみなさん
1年間の活動納め

これからの活動予定です。雨天は1週間延期
 今月: 1月26日(土) 10時~12時
 来月: 2月23日(土) 10時~12時
 事前の申込みはいりません。誰でも参加可能。

発行日: 2013年 1月23日
 発行所: トンボみちファンクラブ事務局
 事務局: 〒230-8611 横浜市鶴見区末広町2-1
 JFEエンジニアリング(株)鶴見製作所 環境保全室
 Tel045-505-7447, Fax045-505-6546
 ファンクラブ通信への自由投稿をお待ちしています。